

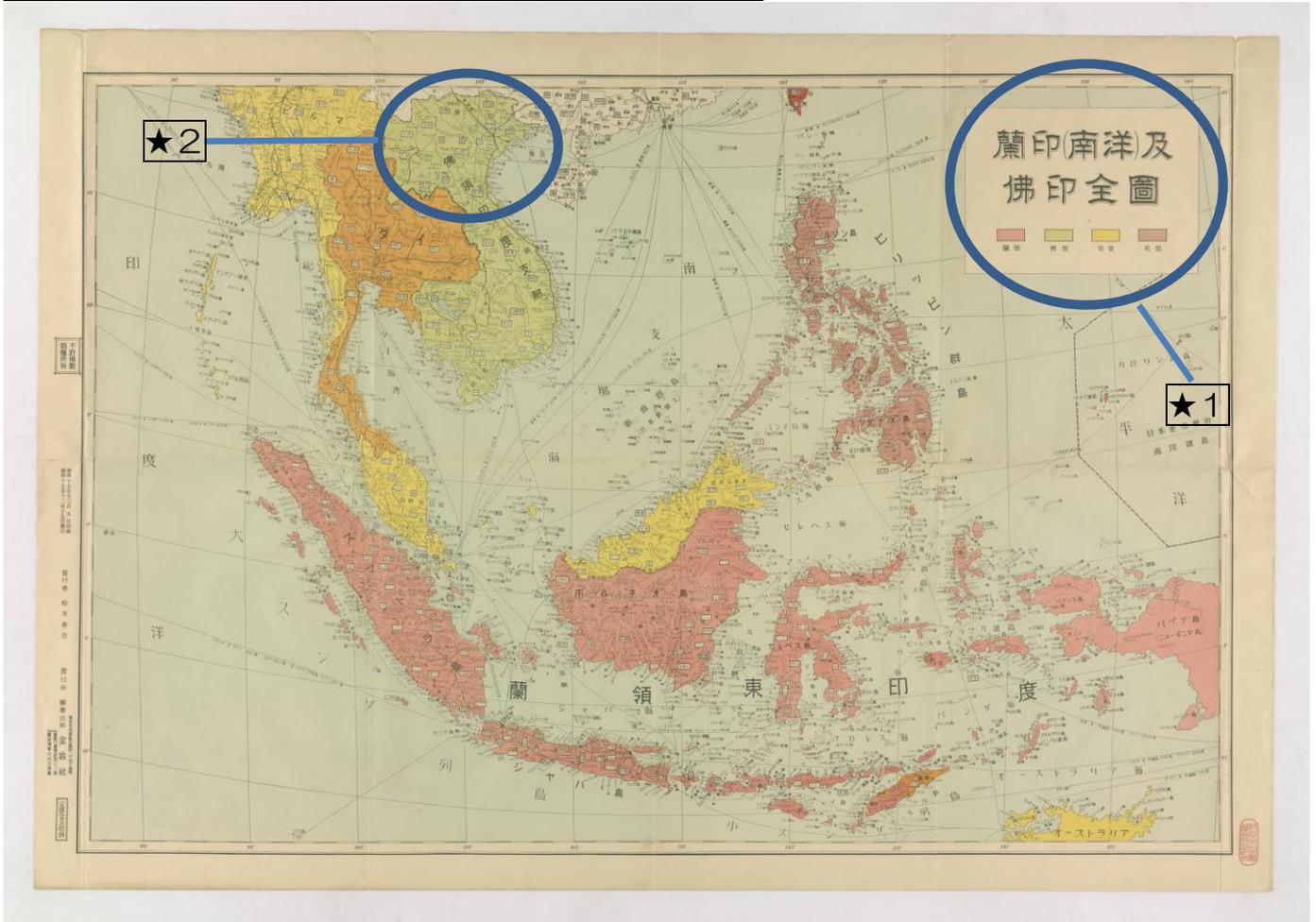
授業で使える当館所蔵地図

No. 41 『最新蘭印及仏印全図』

発行年：1940（昭和15）年

サイズ：54×79cm

作者：金鈴社（発行）松本春吉（発行）東都印刷（印刷）

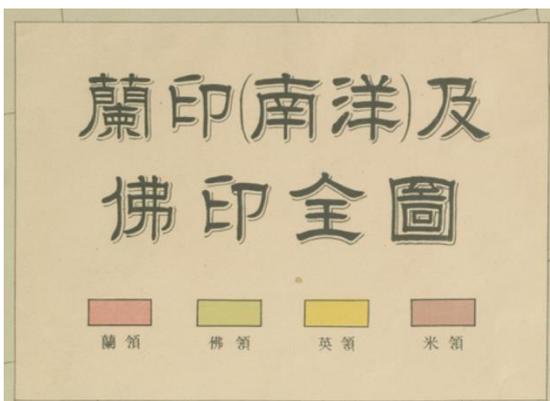


【解説】

1940（昭和15）年に作成されたものである。当時の日本は、1937（昭和12）年に始まった日中戦争が長期化しており、近衛内閣のもと、ヨーロッパ諸国の植民地がある東南アジアへ武力による南進を始めた。その目的は、援蒋ルートを断ち切ることと、石油やゴムなどの資源の獲得である。こうした動きに合わせて、日本が中心的役割を果たし、欧米の植民地支配から脱却し、アジアの民族だけで繁栄しようとする、「大東亜共栄圏」の建設を唱え、フランス領インドシナへ軍を進めた。

この地図は、当時の東南アジアの支配の様子や、現地の資源等を読み取ることができるものである。

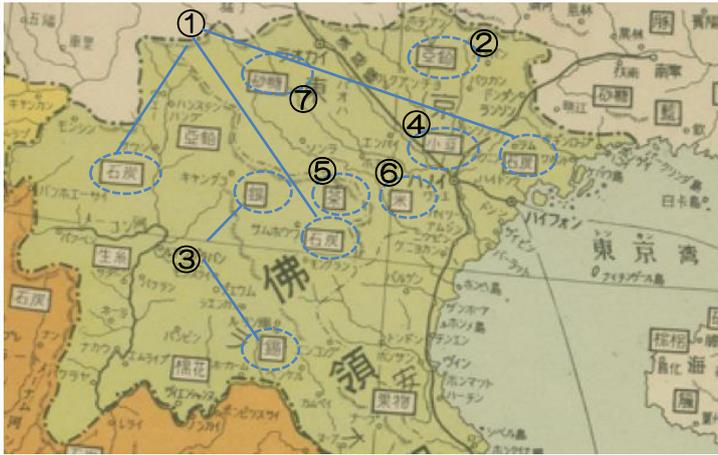
★1 蘭印（南洋）及佛印全図



蘭印はオランダ領東インド、佛印（仏印）はフランス領東インドのことを指す。蘭印は現在のインドネシアで、佛印は現在のベトナム、ラオス、カンボジアである。

このころの東南アジア諸国は、欧米諸国の植民地となっており、オランダとフランス以外にも、イギリスがマレー半島やミャンマーを、アメリカがフィリピンを支配していた。

★2 佛領印度支那



日本は 1940（昭和15）年9月にフランス領インドシナの北部に軍を進めている。さらに、1941年には、日ソ中立条約を結び、北方の安全を確保したうえで、フランス領インドシナの南部へ軍を進めた。

この地図からは、フランス領インドシナにある資源が細かく記されている。南進を進める日本が、資源の存在を把握していたうえで軍を進めていたことを推察することができる。①「石炭」、②「亜鉛」、③「錫（すず）」などの鉱産資源だけでなく、④「小豆」、⑤「茶」、⑥「米」、⑦「砂糖」などの記述も見られ、あらゆる物資を把握していたことがわかる。

【用語について】

- ・ 蘭印
オランダ領東インドのことを指す。
- ・ 佛印
フランス領東インドのことを指す。

【活用の例】

- 列強によるアジアの植民地支配の様子を知ることができる。
→ 中学校社会科歴史的分野の「日清・日露戦争と近代産業」において、当時以降の列強によるアジアの植民地化の様子を確認できる。
- 日本による南進の理由を考察することができる。
→ 中学校社会科歴史的分野の「第二次世界大戦と日本」において、日中戦争が長期化していた日本がさらに南進を進めた理由を考えるための資料となる。
- 東南アジアの資源の分布を確認することができる。
→ 中学校社会科地理的分野の「日本の諸地域 アジア州」において、東南アジアに分布している資源を歴史的分野の学習と関連づけて確認することができる。